



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「経済経営学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	岩本 吉弘		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:G
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	20 %
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %
		協働的な問題探究	30 %
		社会の改善につなげる創造性	20 %
		市民としての主体的態度	10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	2年次での専門演習の選択を意識し、経済・経営どちらのコースにとっても基礎知識となりうるという意味から、現在の日本経済の状況をいくつかのテーマを選んで垣間見てみる。文献を適宜配布し、レポーターと質問者を指定し、報告・討議を行う。経済・経営に関する基礎知識の取得、文献の読解とレポートの作成、討議への参加を通じて学問的素養を培う。		
単位認定基準	日本経済論に関する具体的事例を通じて、経済学・経営学に関わる基礎知識と、レポート作成その他のスキルを身につけること。		
授業計画	<p>以下のテーマにより、適宜文献を配布する。毎回、レポーター・質問者を指定して報告と討議を行う。なお図書館見学を1度行う。最後に各自のテーマ選択によるレポート作成を求める。</p> <p>第1回:セミの進め方とテーマの説明</p> <p>2:図書館見学(貴重資料室)</p> <p>3:戦後の日本経済の歴史(1) - 高度成長</p> <p>4:戦後の日本経済の歴史(2) - バブルとその崩壊、長期不況</p> <p>5:戦後の日本経済の歴史(3) - 映像資料</p> <p>6:景気循環について(1)</p> <p>7:景気循環について(2)</p> <p>8:会社・企業とは何か(1)</p> <p>9:会社・企業とは何か(2)</p> <p>10:雇用・労働の現在(1)</p> <p>11:雇用・労働の現在(2)</p> <p>12:金融システムの基礎知識(1)</p> <p>13:金融システムの基礎知識(2)</p> <p>14:外国貿易・為替(1)</p> <p>15:外国貿易・為替(2)</p> <p>16:まとめ(レポート作成)</p>		
教材・教科書	テーマに応じて、適宜配布する。		
参考図書	講義内で適宜指示する		
参考URL			
授業以外の学習	最後に各自のテーマ設定による年次レポートの作成が必要になるので、テーマ選択を意識して関連する基礎的な文献を探すこと。		
成績評価の方法	毎回の指定された報告と質問・討議の義務を果たすことを前提に、最終レポートによって評価する。		

成績評価の基準	S:単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学習成果をあげた(90-100点) A:単位的基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた(80-89点) B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学業成果をあげた(70-79点) C:単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた(60-69点) F:単位認定基準の学習成果をあげられなかった(59点-)
オフィスアワー	以下のメールに連絡して予約により時間設定をします。e003@ipc.fukushima-u.ac.jp
授業改善・工夫	前年は開講していない。
留意点・注意事項	各自報告資料作成などのため、パソコンやインターネット環境が必要です。
教員の実務経験の有無	



Copyright (c) 2004-2011 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.